
夢 PCAGIP の試み

—グループにおける相互作用の活用—

PCAGIP Dreamwork: An Attempt at Interpreting Dreams in Group Interaction

筒井優介

関西大学大学院心理学研究科

Yusuke TSUTSUI

Graduate School of Psychology, Kansai University

◆要約◆

本稿は、筆者が“夢 PCAGIP” と称したワークの試みを紹介するものである。夢 PCAGIP とは、小グループで夢提供者が自身の夢の意味を見出すことを援助するワークであり、PCAGIP 法と夢フォーカシングを参考にしている。PCAGIP 法は、PCA グループとインシデント・プロセスを組み合わせた事例検討法である。PCAGIP 法でテーマとして取り上げられるのは現実に起こっている事例がほとんどであり、現実に起こっていない夢を取り上げた例はない。そこで、筆者は PCAGIP 法に夢解釈を応用したグループワークである夢 PCAGIP を試みた。本稿では、夢 PCAGIP の概要及び実施手順を紹介するとともに、ワークを実践した一例を報告する。さらに、夢をグループで扱う方法をいくつか検討し、夢 PCAGIP の特徴について考察する。

キーワード：PCAGIP 法、夢フォーカシング、夢解釈、エンカウンターグループ

Abstract

This study introduces PCAGIP Dreamwork, the author's attempt to interpret dreams in group interaction. This is a small-group exercise to help the dreamer find meaning from the dream. It is based on PCAGIP-Method and Focusing Dreamwork. PCAGIP-Method is a case study method that combined Person Centered Group Approach with Incident Process. In most cases, PCAGIP-Method is used for problems that happen in real life, and work on dreams with PCAGIP has, thus far, never been reported. Therefore, the author attempted to develop PCAGIP Dreamwork, a group approach focused on dream interpretation. This paper shows the procedure of PCAGIP Dreamwork and reports an example of a dream interpreted in a group. Then, the characteristics of PCAGIP Dreamwork are discussed in comparison with other groups dealing with dreams.

Key Words: PCAGIP-method, Focusing Dreamwork, Dream Interpretation, Encounter Group

はじめに

PCAGIP法は、村山ら(2008)によって開発され実践されてきたグループワークである。村山(2014)は、非構成的エンカウンターグループと構成的エンカウンターグループを統合した新しいエンカウンターグループの方法としてPCAグループを提唱している。PCAGIP法は、PCAグループにインシデント・プロセスという事例検討の方法を組み合わせたグループワークである。PCAGIP法は今日において、教育(村山2012a, 2012b, 渡辺2012)や産業(中田2012)、心理臨床のケースカンファレンス(森川2012)で活用され、フォーカシングの応用(日笠・小坂2012, 佐藤2013)も行われてきた。

PCAGIP法でテーマとなるものは、友人との関係や職場での悩み、心理臨床におけるクライアントへのかかわりなど、現実起こっている事例を扱う。しかし、本稿で取り上げるような現実に起こっていない夢をテーマにしてPCAGIP法を行った例はない。

そこで筆者は、夢をPCAGIP法に応用した“夢PCAGIP”を試みている。夢はフロイトの精神分析に始まり、ユング心理学やゲシュタルト療法やプロセス指向心理学、フォーカシングにおいても扱われる、心理臨床において伝統的な素材である。これをエンカウンターグループ(PCAグループ)で扱うことによって、個人心理面接とはまた違った形で夢の理解や解釈が促進されると考えられる。本稿では、まず夢PCAGIPの方法を紹介し、夢PCAGIPの一例を報告する。そして、夢を扱っている様々なグループとの比較を行う。

PCAGIP法について

PCAGIP法と夢PCAGIPの相違点を示すために、まずPCAGIP法の概要を簡潔に説明する。PCAGIP法はPCAの基本仮説、すなわち共感的理解、無条件の肯定的関心、自己一致といっ

た促進的態度の3条件をスーパービジョンやカンファレンスに援用して開発された(村山2012c)。実際にPCAGIP法を行う際、ファシリテーターはPCAの基本仮説やPCAGIP法の基本姿勢(村山2012d, p.22)を尊重しながらプロセスを進めていく。

実際の流れとしては、まず事例提供の前にファシリテーターがメンバーに約束事として、事例提供者を被告にしない、批判しないことと記録(メモ)を取らないことを伝える。第1ラウンドでは、まず事例提供者が事例資料を見ながら事例提供の目的や困っていることなどを簡単に述べる。参加者は事例提供者と事例の状況を理解するために、一人一人ずつ順番に質問していく。1~2巡して質問と回答が出揃ったところで、ファシリテーターは状況を整理して第2ラウンドに移る。第2ラウンドになると参加者の構えが取れ、新鮮で面白い質問が出てくる。次第に明らかになっていく状況の全体像をファシリテーターが整理してメンバーに伝えることで、事例提供者に必要な方向性が見えてくることが多い。最後にクロージングとして事例提供者にプロセスの感想を述べてもらう。

夢PCAGIPの概要

夢PCAGIPは、小グループで夢提供者が自身の夢の意味を見出すことを援助するワークである。夢提供者がグループメンバーの質問や感想、問いかけなどから夢を理解し、夢の持つ新たな側面に気づくことがワークの目的である。所要時間は90分から120分が目安である。

グループのコンセプトとしては、PCAの基本仮説やPCAグループのコンセプトとスタンス(村山2014, pp.13-15)を参考にした。夢の理解と意味の検討には、夢解釈にフォーカシングを用いた夢フォーカシング(ジェンドリン1988)を参考にした。夢フォーカシングを行う時のポイントについては、ジェンドリン(1988, pp.16-30, Table 1)と田村(2005, pp.159-162,

Table 2) に提示されている。特に、夢を楽しむ・遊ぶという姿勢は両者に共通している。ジェンドリン (1988, p.29) は「夢を楽しむことは、解釈することよりもずっと大切です。だからあまり一生懸命になりすぎて、夢がおもしろくなくなったり、ときめきがなくなったり、というようにならないようにしましょう」としている。また、田村 (2005, p.159) はフォーカサーに「夢で遊びましょう。決してまじめにやらないでください」と導入する方法を示している。

Table 1 実際にを行う時のポイント (ジェンドリン 1988, pp.16-30)

1 夢を詳しく把握しよう
2 どの質問にも少し時間をかけましょう
3 中断のたびにフェルトセンスに再びふれること
4 自分の中の“批評家”を乗り越えましょう
5 プライバシー
6 夢をみた人だけが解釈できるのです
7 何かが起こってきたらどうするか
8 新しい断片を全体にはめこんでみる
9 どのようにして夢を思い出すか
10 夢が好きになって楽しむこと—解釈が出てきてもこなくても

Table 2 夢のフォーカシングにおける治療関係と技法 (田村 2005, pp.159-162)

(1) ガイド側の楽観的確信と「夢で遊ぶ」姿勢
(2) ガイドのフェルトセンスを利用する
(3) 内的な子どものイメージの使用
(4) 注意スイッチング機能

Table 3 PCAGIP 法と夢 PCAGIP の相違点

PCAGIP 法 (村山・中田 2012 より)		夢 PCAGIP
構成：ファシリテーター、記録者 2 人、メンバー 8 人 (うち事例提供者 1 人) 金魚鉢が参加する場合がある	構造	構成：フォーカサー、ファシリテーター、メンバー 5～6 人 金魚鉢は参加しない
事例提供者を、被告にしない、批判しないこと 記録 (メモ) をとらないこと	グランドルール	コンセプト：PCA の基本仮説 PCA グループのコンセプトとスタンス 夢の理解と意味の検討：夢フォーカシングを参考
事例	扱うテーマ	夢
事前に事例資料を提出する 事例提供の目的などを簡潔に述べる 事例提供者と事例をめぐる状況を理解するために質問を行う	第 1 ラウンド	事前の資料提出は必要ない 夢を語り、ファシリテーターと内容の確認を行う 夢の状況を理解するために質問を行う
メンバー間の相互作用が徐々に行われる	メンバーの感想	メンバーが感想などを述べる段階を独自に設定している
情報の整理に伴い多様な質問が出てくる 事例提供者に必要な方向性が見えてくる ことが多い	第 2 ラウンド	夢フォーカシングの問いかけを用いたり、夢から連想したことを述べる 問いかけや連想に反応するかを楽しむ
事例提供者がプロセスの感想を述べる 時間があれば参加者の感想を述べる	クロージング	メンバー・フォーカサーの順でプロセスの感想を述べる ワークの感想を述べる

以上を踏まえて、PCAGIP法と夢PCAGIPの相違点をTable 3に示す。

夢PCAGIPの実施手順

夢PCAGIPの実施手順を、準備段階、夢を語る段階、質問段階、夢を共有する段階、問いかけの段階、クロージングの段階に分けて紹介する。

〈準備段階〉

夢PCAGIPで構成される役割は、夢提供者（以下、Dm）が1人、ファシリテーター（以下、Fac）が1人、メンバー（以下、Mb）が5～6人で構成されることが望ましい。座る際はDmの隣にFacが座るようにし、構成員全員で円を作って座る。準備物は、ジェンドリン（1988, p.15）や田村（2013, p.93）に載っている夢フォーカシングの『質問早見表』（付録）である。

手順1：DmとFacを決める。Dmは夢の語り手であり、事例として提供できそうな夢がある人が立候補することが望ましい。また、熟練者のグループではDmにFacを選んでもらうというのもよいだろう。その際、「今日は誰に聴いてもらいたい感じだろう」というようにDmの感じを確かめながら決定することで、Dmが安心して夢を語るができる。

〈夢を語る段階〉

手順2：Dmが夢を語る。Facは質問などを行わず、相づちなどによって話を促すとともに夢の内容の理解に努める。

手順3：Facは夢を一通り聴いた後、確認のために理解した内容を伝え返す。Dmは、Facの理解した内容が違う場合修正し、DmとFacで夢の中で何が起こっていたかの理解を一致させる。

〈質問段階〉

手順4：Mbは夢についての理解を広げるため、Dmに質問する。Dmの両隣のどちらから始めて一周する。PCAGIP法と同様に一人一問が原則であるが、Mbが聞きたい事を聞いた

めに複数回発言するような場合も可とする。最初のMbが何を質問してよいか分からない場合は、Facから質問を始めてもよい。

〈夢を共有する段階〉

手順5：Mbが1人ずつ、夢の感想や思ったこと、夢を聞いて連想したこと、感じられたフェルトセンスなどをDmに伝える。Dmはそれを聞いて思ったことを自由に述べてもよい。

この段階は、夢PCAGIPを試行していた際に協力者から得られた意見を基に、独自に設定した段階である。当初は問いかけの段階に組み込んでいたが、「Mbの感想がないとDmが独りになるように感じる」という意見から、感想を述べる段階を設定することにした。

〈問いかけの段階〉

手順6：MbはDmに問いかけを行う。問いかけはどのようなものでもよい。夢フォーカシングの『質問早見表』から問いを選んでもいいし、ゲシュタルト療法や精神分析などフォーカシング以外の理論に基づく問いかけをしても良いし、手順5のように連想したことやフェルトセンスを伝えても良い。この時に教示として、問いが外れてもがっかりしないこと、「Dmが反応するかな？」などと楽しむようにして問いを試してみることを伝えておくと、Mbが問いかけを行う際の不安を軽減できる。手順4と同様に一問一答が原則であるが、推進しそうだと感じられたらMbやFacの判断で、Dmに確認してリスニングを行っても良い。

ここでのFacの役割としては、Dmの様子を見ることである。体験過程が推進する時は表情がパッと明るくなったり、「あっ」などの声が出たり、笑いが出たりする。Facはそのような変化に気づき、必要ならば「今、表情が変わったように見えましたけど、何が起こりました？」などと問いかける。

〈クロージングの段階〉

手順7：MbはDmに夢の感想を一人ずつ述べる。Mbの感想によってDmの体験過程が推進することもある。DmはMbの感想を聞いて

思ったことを自由に述べても良い。最後に Dm が夢の感想を述べて終了となる。

手順 8：Dm、Fac、Mb の順番でワークを体験した感想を一人ずつ述べて、体験をシェアする。

夢 PCAGIP の一例

ここで、夢 PCAGIP を実施した例を紹介する。参加者は臨床心理学を学ぶ大学院生 6 名（全員 20 代女性）で、2 泊 3 日の合宿授業の 2 日目に実施した。Dm は A、Fac は B、Mb は C、D、E、F であり、筆者は Mb として参加した。実施に先立って、夢 PCAGIP の実施手順を示した用紙と田村（2005, pp. 151-152）の『質問早見表』を参加者全員に配布した。また、Fac である B も A に質問や感想を述べたり問いかけたりしてもよいことにした。

夢を語る段階：はじめに A が夢を語り、その後 B が夢の内容を確認した。以下は夢の概要である。

設定は修学旅行で韓国へ行くという場面だが、土地は東南アジアの発展途上国の整備されていない場所だった。自分一人だけ遅刻してしまい、母親が車を運転して現地まで送っている。その途中で、死刑囚 500 人が逃走したという情報を知る。途中で道に迷い、兵役を課せられて耕作している肉体労働者に道を聞こうとした時、あと 30 分で逃走した死刑囚が山から下りてくることがわかる。A は危険を察知し「あと 30 分だよ」と言ったが、労働者はまだ作業している。その人たちはどこか怯えているが、司令官が「あと 15 分いける」と作業を続行させる。A は道を思い出して、母親に教えて別荘について。夕暮れで外も暗くなり時間も迫ってきたが、修学旅行に来ているみんなは外で遊んでいる。A は部屋の中において、別荘の窓は開いている。時間が過ぎて外は真っ暗になってもまだみんなは遊んでいる。A は家の中でパニックになっており、怖いけどみんな遊んでいるし、自分は先生でも何でもないとため何も言えない。外でがさが

さと音がして、死刑囚の存在に気づく。A も他の人も事態の重大さに気づく。みんなが別荘に逃げてきて、最後の一人もなんとか入ることができた。その瞬間に死刑囚たちが別荘に向かってきた。最後の一人が入ったことで、「じゃあ今から鍵を閉めに行け」という動きになる。A は「え、してなかったのかよ」とパニックになる。鍵がすべて閉まったところで目が覚める。起きた時は恐怖しかなかった。この夢を見た後日思い出したが、別荘が実家であったことに気づいた。

質問段階：C「母親は A を車から降ろしてそのまま帰ったのか」や E「誰にも危険を伝えられそうな人はいなかったのか」など、一人一人ずつ質問を行った。これによって、「母がどこへ行ったのか覚えていない」や「最後の一人だけ覚えているが、それ以外は分からない。最後の一人がその人なら、大学院のみんなだと思う」など、A の夢に対する理解が広がった。

夢を共有する段階：Mb が一人ずつ夢の感想を述べ、A がそれぞれにコメントを述べた。D と F は以前に A の夢を聞いたことがあったが、その時は別荘が実家だと分かっていたこともあり、D「今聞いた感じは怖い感じがなかった」や F「(実家だと)安心できるところにいるって思えるし、実家でよかったね」のような感想が述べられた。A も「D と F には怖い夢として話したけど、実家だったということは今伝えられてよかった」とコメントした。また、実家であったことに気づいたことに関して、「夢を見たときと今思い出したときの自分の気持ちとかが変わっていて、だから実家も思い出せたのかなあ」と自分の気持ちの変化についても感じていた。

問いかけの段階：C「夢では家に皆入れて戸締りできてめでたしめでたしで終わったけど、その後どうなったのかなあ」や D「気持ちが変わったって話をしたけど、どんな感じになったのかなあ」、B「A にとっての実家ってどんな意味があるのかな」など、夢の持つ意味や新

た側面を引き出す質問やAの気持ちに触れる質問がなされた。Eが「最後の一人を入れてくれた人がいて、ドアを閉めてくれた人がいて、鍵を閉めるのを手伝ってくれた人もいて、焦っているけれど色々協力してくれている人もいるなあって感じた」と伝えると、Aが「確かに…そう、私鍵一個も閉めてないんだ、たぶん。私はずっとそこにいるの。人が動いているところの映像だけがあって…そうだね、協力してくれるわ!」と新たな側面に気づいた場面もあった。

クロージングの段階：Mb、Fac、Dmの順でプロセスを振り返った。F「怖い夢の中にもプラスなものが必ずあって、それに自分で気づけていけたってということが、それ自身が自分の力だなあ」、B「Aを守ってくれる場所があってよかったなって思うし、自分にとっての実家もそういう場所かなって思ったり…Aらしくいろんなことをしている姿を私は応援したい」などの感想が出た。Aも感想として「いい意味でプライドがなくなったっていうか、でもそれは皆だから、こうやって一人一人が一人の人のことを見てくれていて…この場を与えてもらってすごい、本当に感謝しかないです」「怖い夢がこんな風に終わるとは思ってなかった」と述べた。

ワークを振り返って、Aがこの体験から見出した夢の新たな意味を整理する。このワークで一番焦点が当たった夢の内容は、別荘が実家だったということであった。夢を共有する段階で、Aは実家が守ってくれているという安心感を感じる一方、「実家ってなんで思い出したんだろう」と、別荘が実家だと気づくに至った要因を振り返って観た。そして、この段階の最後では「夢を見たときと今思い出したときの自分の気持ちとかが変わっていて、だから実家も思い出せたのかなあ」と自分の気持ちの変化に焦点が当たった。問いかけの段階では、Dや筆者の問いかけによってAの気持ちの変化に焦点が当たり、最近の親との会話から「吹っ切れた」ことを振り返るとともに、「今はこら辺（高い位置）にいるべきなのにここ（低い位置）にいなきゃい

けないみたいな感覚があったのが、それを別に堂々と言える。『私はここ（低い位置）だから』みたいな感じ」「それを自分が認められるようになった」とA自身の変化を言い表した。また、実家が象徴する意味については、「親がいてくれるから『自由に行って大丈夫だ』みたいな安心感があって…犬の綱が超長いみたいな、けどそこにはつながっている…実家は守ってくれる場所」と言い表し、「『大丈夫だよ』って言ってくれる守りじゃなくて、『ここに帰ってきていいんだよ』っていうやさしさじゃなくて、『そこで頑張れるあなたがいるでしょ』っていうようなことをいつも言ってくれている」という親の守り方を再確認するとともに、「親を頼っている自分も認められるようになった」。

考察

夢を扱ったグループをいくつか取り上げて夢PCAGIPとの相違点を考察する。

田村（2013）は夢フォーカシングをグループで扱うワークとして「小グループ夢フォーカシング」を紹介している。小グループ夢フォーカシングの手順としては、全員がそれぞれ扱う夢を選び、「夢のメモ」（p.92）に概要を書き、一人ずつ夢の内容を簡単に語る。全員の夢が共有できたら、一人の夢を取り上げて夢から受ける感じを味わったり、夢から連想することや夢の意味を思い浮かべたり、質問を投げかけて変化が起こるか試したりする。一人が終われば順番に次の人の夢を取り上げたり、ペアや3人に分かれてお互いにフォーカシングをしたりして、最後に全体で共有する。夢PCAGIPとの相違点としては、小グループ夢フォーカシングでは全員が夢を扱うこと、ガイドとペアでフォーカシングを行うことが挙げられる。夢PCAGIPでは、夢を扱うのはDm一人だけであり、質問や問いかけには複数（Mb）が介入する。一人の夢についてグループの力を利用して解釈を行うのが夢PCAGIPの特徴である。

フォーカシングや PCA 以外のオリエンテーションでの集団ドリームワークとしては、藪添 (2011) の「グループ夢分析」が挙げられる。藪添 (2011) はグループ夢分析を学部生のゼミで行っている。手順としては、ゼミで見てほしい夢を予め記録し、ゼミで記録をメンバーに配布するとともに一人15分ずつ発表する。指導教員 (藪添) が公開面接の形で聴き、メンバーは一通り聞き終えた後質問や感想を述べる。夢を持ってくることを強制しないために、夢の発表の代わりに箱庭を置いたり、他のメンバーの面接を聞くだけでも良いことにしている。夢 PCAGIP との相違点としては、グループ夢分析では夢を共有することと相互交流に主眼が置かれること、夢の解釈が精神分析的な発想に基づく解釈のみによることが挙げられる。夢フォーカシングを理論的基盤にしている夢 PCAGIP では、精神分析以外の様々な解釈も行うことができる。ジェンドリンの夢へのアプローチは現象学を基本にしており、推論を体験 (夢) にお仕着せないことを原則としている。しかし、体験 (夢) は複数の理論によって言い表すこともできるために、従来の解釈理論はどれも体験と照合してみる価値がある。質問早見表に見られる16の質問 (ジェンドリン 1988) についても、質問3ではフロイトを参考にし (p.201)、質問7・8・9ではユングとパールズを引用している (p.223)。そのうえで、実際に行う時のポイント (Table 1) の6で述べているように「夢をみた人のからだだけが、夢を解釈できる」(p.25) としている。また、これをグループで行うことによって相互作用が活性化し、夢の共有だけでなく夢の意味や新たな側面の理解を促進し、Dm が夢の持つメッセージを受け取ることが可能となるのである。夢 PCAGIP の実際の場面では、Mb 自身が気になることについての質問や問いかけだけでなく、他の Mb の質問や問いかけをヒントにした質問や問いかけも出現する。Mb の数だけ多様な質問や問いかけが出現するだけでなく、質問や問いかけを通じた Mb と Dm の相互作用が他の Mb

にも影響していき、相互作用の連鎖が夢の意味や新たな側面の理解という形で Dm に還元されるのである。

夢を集団で扱った例として、マレーシアのマレー半島にすむ原住民であるセノイ族が挙げられる。セノイ族は村で夢を共有して解釈しあい、さらに夢を変形したり制御したりする (ドムホフ 1991)。これは想像の産物であるという指摘もあるが (東山 2002)、これによって夢をグループで扱うことの意義が検討された。東山 (2002, p.29) は「現実にもしセノイのような部族が存在し、夢を語る習慣があるとしたら、この部族の精神衛生がよいことはたしか」と述べ、「夢のメッセージが読み取れると、人生が変わるほどの影響をもたらす」と言及している。夢 PCAGIP では一人の夢を取り上げ、質問を通じて内容の理解を共有し、Mb それぞれが夢の感想を伝えて解釈を行う。こうした一連の流れを検討すると、夢 PCAGIP のプロセスとセノイ族の夢の扱い方には共通する部分が多い。我々は夢を共有しあい楽しむ習慣を持たないが、夢 PCAGIP のようなワークを通じて夢を共有することでセノイ族の夢理論に期待されたものを補えると筆者は考える。

他にも、ゲシュタルト療法やプロセス指向心理学においても夢をグループで用いている。夢 PCAGIP はこれらを否定するものではない。ジェンドリン (1999, p.97) は『体験過程療法』の中で、他の心理療法のシステムを「ある前提される基本的内容にこだわり、人をそれらの内容を通して取り扱おうとする」単一理論システム (single-theory systems) と「ひとつの狭い手続きだけが必要であるとされる」単一技法型 (single-technique type) に分類し、両者のタイプが排他的であろうとするために問題が生じると述べている。ジェンドリンはこれらの理論と技法を「どのように使うか」が問題としており、前述したジェンドリンの現象学の考えに基づく、それぞれの理論や技法を体験と照合してみることが効果的な使い方と言えよう。

夢PCAGIPにおいてもDmの体験を基準にして、ゲシュタルト療法やプロセス指向心理学など様々な考え方を利用することができるのである。

今後の課題

本稿では、夢PCAGIPという方法の事例を一例のみ紹介した。今後はこの方法の事例を構築していく必要がある。また、本稿の実施例ではDm体験をする者が一人だけであるが、参加したメンバー全員がDm体験をするようなエンカウンターグループを実施するとグループがどのように変化するのかも検討する余地がある。さらに、実施例で参加した大学院生は全員フォーカシングの知識や経験があった。今後夢PCAGIPを実施するにあたり、このワークがフォーカシングの知識やオリエンテーションを前提としているのか、フォーカシングについての知識がない人にどのように説明するのかを検討しなければならない。そして、夢の理解や解釈について理論的に整理して、夢PCAGIPを通して夢の意味をどう捉えるのかを明らかにする必要がある。

謝辞

本論文を執筆するにあたり、研究にご参加いただきました関西大学臨床心理専門職大学院の皆様、ご助言を賜りました関西大学大学院心理学研究科池見研究室の皆様、ご指導を賜りました関西大学臨床心理専門職大学院池見陽教授に御礼申し上げます。また、“夢PCAGIP”の発想を提供していただきました株式会社採用総研宮本一平氏に御礼申し上げます。

文献

ドムホフ (1991) : 『夢の秘宝』 奥出直人・富山太佳夫 (訳) 岩波書店 (Domhoff, G. W. (1985) : *The mystique of dreams*. University of California Press.)
 ジェンドリン (1988) : 『夢とフォーカシング』 村山正治 (訳) 福村出版 (Gendlin, E. T. (1986) : *Let your body interpret your dreams*. Wilmette, IL: Chiron Publications.)

ジェンドリン (1999) : 体験過程療法 ジェンドリン、E.・池見陽 『セラピープロセスの小さな一歩』 池見陽・村瀬孝雄 (訳) 金剛出版。
 東山紘久 (2002) : 『プロカウンセラーの夢分析』 創元社。
 日笠摩子・小坂淑子 (2012) : PCAGIP法とフォーカシング 村山正治・中田行重 (編) 『新しい事例検討法 PCAGIP入門』 創元社 pp.134-147。
 森川友子 (2012) : 心理臨床ケース・カンファレンスとPCAGIP法 村山正治・中田行重 (編) 『新しい事例検討法 PCAGIP入門』 創元社 pp.118-123。
 村山正治 (2012a) : 大学院生への実践 (I) 村山正治・中田行重 (編) 『新しい事例検討法 PCAGIP入門』 創元社 pp.50-71。
 村山正治 (2012b) : 大学院生への実践 (II) 村山正治・中田行重 (編) 『新しい事例検討法 PCAGIP入門』 創元社 pp.72-89。
 村山正治 (2012c) : PCAGIP法とは何か 村山正治・中田行重 (編) 『新しい事例検討法 PCAGIP入門』 創元社 pp.12-21。
 村山正治 (2012d) : PCAGIP法の手順とポイント 村山正治・中田行重 (編) 『新しい事例検討法 PCAGIP入門』 創元社 pp.22-33。
 村山正治 (2014) : 『「自分らしさ」を認めるPCAグループ入門』 創元社。
 村山正治・石津寛子・金城聡・仙石裕樹・坂元美和・柴田妙・則安総一郎・福山剛・増田仁美・松壽順子・三木北斗・村田裕美 (2008) : エンカウンターグループとインシデントプロセスを組み合わせた新しい事例検討法 (PCAGIP法) の実際 (I) 『東亜大学大学院総合学術研究科臨床心理相談研究センター紀要』 8, 3-10。
 中田行重 (2012) : 企業管理職のためのPCAGIP法を用いた事例検討 村山正治・中田行重 (編) 『新しい事例検討法 PCAGIP入門』 創元社 pp.98-107。
 佐藤文彦 (2013) : フォーカシング指向PCAGIP 村山正治 (監) 『フォーカシングはみんなのもの』 創元社 pp.118-121。
 田村隆一 (2005) : 夢のフォーカシングにおける治療関係と技法上の特徴 伊藤義美 (編) 『フォーカシングの展開』 ナカニシヤ出版。
 田村隆一 (2013) : 夢フォーカシング/小グループ夢フォーカシング 村山正治 (監) 『フォーカシングはみんなのもの』 創元社 pp.90-93。
 渡辺隆 (2012) : PCAGIP法の教師への実践 村山正治・中田行重 (編) 『新しい事例検討法 PCAGIP入門』 創元社 pp.90-97。
 藪添隆一 (2011) : グループ夢分析による学部ゼミ教育の試みについて 『香川大学教育実践総合研究』 22, 37-50。

付録 質問早見表 (田村 2013)

1. **何が心に浮かんできますか**
夢について、どんなことを連想しますか。
2. **どんな感じがしますか**
夢の中でどんな感じがしましたか。その夢がもっていた全体の感じを感じてください。
生活の中で、どんなことがその感じに近いでしょうか。
3. **きのうのことは**
(昨夜の夢)きのう何をしましたか。(以前見た夢)夢を見たころに、何がありましたか。
4. **場所は**
夢に出てきた主な場所から、何を思い出しますか。そういう感じのする場所はどこでしょうか。
5. **夢のあら筋は**
夢のあら筋を要約してください。生活の中でどんなところがその話に似ているでしょうか。
6. **登場人物は**
この人から何を思い出しますか。からだはどんな感じがしますか。
7. **それはあなたの中のどの部分ですか**
登場人物があなたの心のある部分を象徴していると仮定してみましょう。
その人のような性格や気持ちが自分の一部としたら、どう感じますか。
8. **その人になってみると**
夢の登場人物の一人(あるいは夢の中に出てきた物、動物)になってみましょう。
イメージの中でその人(物、動物)になってみましょう。
その人(物、動物)は、どんなことを言いたいでしょうか。どんな気持ちでしょうか。
9. **夢の続きは**
夢の最後か重要な場面を思い浮かべましょう。
そして、そのまま待ってみましょう。次にどんなことが起こるでしょうか。
10. **象徴は**
夢で出てきた物や人が、何かの象徴だとしたら、どういう感じがするでしょう。
11. **身体的なアナロジーは**
夢で出てきた物や人が、あなたのからだの一部を表わしているとしたら、それはどこでしょう。
12. **事実に反するものは**
夢の中で目立って事実と違っているのは何ですか。夢と現実とで、感じ方の異なる部分は？
13. **子どもの頃のことは**
夢に関連して、子どもの頃のどんな思い出が出てきますか。
子どもの頃に、この夢と似た感じを感じたことはあったでしょうか。
14. **人格的な成長は**
あなたはどんなふうに成長しつつありますか。
あなたは何と闘っているのですか。何でありたいのでしょうか。何をしたいのでしょうか。
15. **性に関しては**
もし夢が、あなたの性的なものに関連があるとすると、夢は何を言おうとしているのでしょうか。
16. **スピリチュアリティに関しては**
夢は、創造的な可能性、スピリチュアルな可能性について何かを語っていませんか。

